



宮城県七ヶ浜町で支援活動が続ける「レスキューストックヤード(RSY)」のスタッフによる現地レポートを毎月お届けしていきます。RSYが総力を挙げて取り組む中、活動資金の不足は一番の課題です。みなさんの支援が息の長い活動を支え、被災者の復興の力になります。活動資金のサポートにぜひご協力ください!

「七ヶ浜の子ども達」

文：浦野 愛

東日本大震災から早3カ月が過ぎました。RSYが支援活動を展開している七ヶ浜町では、犠牲者98名、行方不明者6名、約500戸の家屋が流失しました。

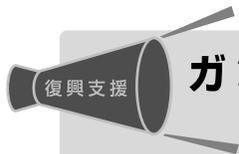
発災から約2週間後の3月25日、七ヶ浜町災害ボランティアセンターの設置主体であり、当法人の会員でもあった七ヶ浜町社会福祉協議会からの支援要請を受け、第1陣が現地に駆けつけました。

当時はガソリンの供給のままならず、外部から人・物の支援も届きにくかったため、発災から約1カ月は町内の中高生たちが中心となりボランティア活動にあたっていました。私たちは主に、災害ボランティアセンターの運営サポート、ボランティアのための炊き出し、避難所での足湯ボランティアの3つの支援活動を行いました。特に、東北地方の3月の凍てつく寒さの中では足湯ボランティアは大変喜ばれました。温かいお湯に足をつけながら、つかの間のボランティアとの会話は、被災された皆さんの固くこわばっていた心と体を自然と緩ませてくれたのか、震災当時の様子、避難所生活の苦悩、今後の生活への不安、ボランティアや地域の方々への感謝等、たくさんのお話を聞かせて下さいました。

避難所が解消された現在でも仮設住宅での活動は続いており、これまでにのべ1,000人以上の方にご利用いただいています。これらの活動には地元中高生も

参加してくれました。家や家族、大切な友達を失った子、体の弱いおばあちゃんを必死に高台へ避難させた子、襲いかかる津波を目の当たりにした子…一人ひとりの子ども達が抱える体験は、私たちの想像するに余りある程重く辛いものですが、「家にいるよりここに来た方が友達やいろんなボランティアさんに会えて楽しい」「町のために何か役に立てることをしたい」と多くの子ども達が足しげく通ってくれました。

現在は、他団体や大学生らの協力を得て「つながる遊び庭・子どもアートしちがはま」プロジェクトを立ち上げ、子ども達の笑顔や安らぎを取り戻すための活動を継続しています。



ガンバレ! RSY ～応援メッセージ～

特定非営利活動法人ドリーム 事務局 西原晃代

私が浦野愛さんに出会ったのは2009年のことでした。ドリームは「脳卒中障害者の生きがいづくり」を支援する団体です。スタッフは障害があることですでに「災害時要援護者」になっています。脳卒中障害の特徴の説明に、真剣に耳を傾け、災害に備えるための必要事項などを提案してくれました。

レスキューストックヤードは市民活動ですが、そこで働く彼女たちはボランティアの私たちのように、他の職業を持っていません。ボランティア性は高いけれど、プロとして働く彼女たちの生活を守るために、何かできないかと考え、私は寄付をしました。この地域で大災害が起こった時、一番頼りになる団体であることは間違いありません。一つ一つの積み重ねが、未来の自分たちの安心へとつながっていくと思います。あなたも寄付をしませんか?



活動支援金 募集中!!

レスキューストックヤード

URL: <http://rsy-nagoya.com>

振込先：郵便振替

口座番号：00800-3-126026

加入者：特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

※通信欄に「寄付」とご記入ください。

宮城県七ヶ浜町で支援活動が続ける「レスキューストックヤード(RSY)」のスタッフによる現地レポートを毎月お届けしていきます。RSYが総力を挙げて取り組む中、活動資金の不足は一番の課題です。みなさんの支援が息の長い活動を支え、被災者の復興の力になります。活動資金のサポートにぜひご協力ください!

「たった一つの出会いがもたらす笑顔と希望」

文：浦野 愛

RSYでは3月25日より、七ヶ浜町に向けてボランティアバスを派遣しています。これまでにのべ1,500名以上のボランティアが現地を訪れました。発災後は、津波被害にあったお宅の泥かきや漂流物の撤去など、「作業」を中心とした活動がメインであり、多くのボランティアの力によって、町の中も随分きれいになりました。発災から4カ月が経ち、家を失った人々は仮設住宅や賃貸アパート等へ移られました。それから2カ月以上が経過した今、被災地は「人と人とを繋ぎ、生きがいを見出す支援活動」への転換期を迎えているように思います。

最近「地域が離れ離れになって、周囲に知っている人がいないので寂しい」「仮設住宅に入ってマイナス

がゼロに戻っただけ。これからが本当に苦しい時」などという言葉が皆さんからよく聞かれます。お金、仕事、家の問題等、被災された方々の目の前に突きつけられている現実問題は決して容易なものではありません。これからボランティアがこの課題に手が出せる部分はほとんど無いのかもしれませんが、しかし阪神・淡路大震災をはじめ、私たちが16年間数々の被災地で出会ってきた被災者の方々は「復興への歩みは長く苦しいものだが、心配してくれる、応援してくれる人の存在が、私たちの頑張りを支え続けてくれた」とおっしゃいます。

私たちの拠点であるボランティアきずな館では、これまでの支援活動で繋がった仮設住宅の方々をお招きし、毎週2回交流会を実施しています。1日はRSYボランティアが、住民の方から震災前の町の様子や震災当時の状況、町の歴史や見どころなどを教えて頂き、もう1日はそのお礼に住民の方を夕食会にご招待して、さらに親睦を深めています。

交流会を終えた帰り際、ある住民の方が「私は津波で全部流されちゃったけど、皆さんと出会って、たくさん笑って、おいしい夕食を食べたら本当に生きてよかったと思えたわ」と笑顔をごぼされました。たった一つの出会いがもたらす笑顔と希望。私たちは、この小さな積み重ねをこれからも大切に、今後も支援を続けていきたいと思っています。



ガンバレ! RSY ～応援メッセージ～

復興支援

♪ハーモニー♪ 事務局 明石雅世

私たち♪ハーモニー♪は、子育て応援の任意団体です。小さなお子さんと親の出会いの場所「つどいの広場」を東区で開設しています。

3月11日以降、被災地に思いを馳せながら「今、何ができるのだろう」と考え続け、絵本を送るプロジェクトに賛同し絵本を送ったり、子ども支援団体に義援金を送ったりしました。

本当なら、今すぐにも被災地に行けたらと思うばかりですが、なかなか思うようにはいきません。レスキューストックヤードさんは、災害時の支援活動のスペシャリストとして、阪神・淡路大震災から多様な支援をしてくれています。この想いを活動支援金に託すことでエールを送ります。そして、被災地の皆さんに恥じないように真っ直ぐに生きていくことを肝に銘じて、想いを共にしたいと思います。よろしくレスキューストックヤードさん。



活動支援金 募集中!!

レスキューストックヤード

URL: <http://rsy-nagoya.com>

振込先：郵便振替

口座番号：00800-3-126026

加入者：特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

※通信欄に「寄付」とご記入ください。

宮城県七ヶ浜町で支援活動が続ける「レスキューストックヤード(RSY)」のスタッフによる現地レポートを毎月お届けしていきます。RSYが総力を挙げて取り組む中、活動資金の不足は一番の課題です。みなさんの支援が息の長い活動を支え、被災者の復興の力になります。活動資金のサポートにぜひご協力ください!

「復興への一歩を踏み出そう! 浜再生プロジェクト」

文：浦野 愛

私たちが七ヶ浜町で支援を始めた当初、七ヶ浜町長より「浜の復興が町全体の再生に直結する」という言葉をお聞きしました。七ヶ浜町災害ボランティアセンターでは「浜清掃」を新たな活動メニューに加え、多い時では1日100名以上のボランティアが活動に関わりました。しかし、参加したボランティアの半数以上は県外からの来町者であったため、仙台市をはじめ近郊地域からの応援団をもっと増やしていくことが今後の息の長い支援に繋がっていくであろうと考えました。そこで地元NPOやボランティア団体へ協力のお声掛けをしたところ、10団体以上が賛同して下さり、7月に「七ヶ浜再生プロジェクト実行委員会」が発足しました。主な活動内容は今回の津波で大きな被害を受けた菖蒲田浜海水浴場を中心に、1時間程度の清掃作業を行うというものです。親子や会社員の方でも参加しやすいよう毎週土日に活動日を設定し、災害ボランティアに対する敷居がなるべく低くなるように配慮しました。活動期間である7月23日～9月4日の間でのべ500名以上の方々にご参加下

さいました。これらの動きに伴って、震災から半年を迎える9月10日には、地元菖蒲田浜地区住民の方々を中心となり『菖蒲浜・復興まつり』が開催されます。(執筆は9月上旬)

この祭りは「毎日浜を見れば涙が出てくる。きっとこの悲しみはどれだけ時がたって一緒だろう。でもどこかで復興への足かがりを見つけないか」と思っていた。毎年開催していた夏祭りもあきらめかけていたけれど、七ヶ浜を応援してくれている沢山の方々の協力を得ればできるかも知れないと思えた。この祭りを一区切りにして、平常の生活に向けて「一歩踏み出したい」という区長さんの声を応援する形で実現しました。当日は海浜清掃や復興セレモニーも予定されています。RSY名古屋事務局のコーディネートで、愛知県常滑市大野海水浴場から菖蒲田浜海水浴場へ沢山の方々の想いのつまった「応援の砂」を届けるためのプロジェクトも進んでいます。この取り組みが、地元ボランティアと被災住民のそれぞれの復興へ向けた一歩になるよう、心から願っています。



ガレキや漂流物で一杯の海岸



ボランティアの手によって美しく蘇った海岸



菖蒲田浜海水浴場での活動の様子

復興支援

ガンバレ! RSY ～応援メッセージ～

名古屋市在住 杉本 泉

私は今年のはじめに体調を崩し、実家に帰りました。その1ヵ月後に震災が起きました。微力ながら自分にできる事を考え、被災された方々の応援としてカンパを集めたり、再生可能なエネルギーを使う社会への転換を呼びかけ、署名を集めたり…。でも、食品の安全性やエネルギー問題などは少しずつしか変化おらず、被災した方々への応援はまだ必要です。

でも、私は信じています。協力し合えば、日本の食に安全がプラスされ、生活に安心がプラスされ、みんなの顔に笑顔が増える事を。まずは、何か買う時に「つもり貯金」(買ったつもりでそのお金を貯金へまわす)ならぬ、「つもりカンパ」(買ったつもりでそのお金をカンパへまわす)してみませんか?



活動支援金 募集中!!

レスキューストック ヤード

URL: <http://rsy-nagoya.com>

振込先：郵便振替

口座番号：00800-3-126026

加入者：特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

※通信欄に「寄付」とご記入ください。